

# 奈良・人と自然の会



## 春寒の初瀬街道を歩いて

[2月11日 第六回 東海自然歩道 自然観察会]

柳田 弥知子

前回1月の同じ集合場所とは思えぬ位、大勢の人々で、ごったがえす近鉄・桜井駅。  
(後に、M新聞社のラジオウォークラリーときいた。)

JRで一駅先の‘三輪駅’まで行き、前回も歩いた町並みを通り、見慣れた大神神社に出る。

しばらく歩くとヤマアイのちょっとした群生に会う。緑色の葉がつややかだ。「これは染料に使うアイとはちがいますよ。」と丁寧な説明をいただく。

平等寺でみつけたフキノトウ。通り過ぎる一人ひとりの足を止めさせ、「あっ」と静かな歓声を、あげさせる。そんな力があるのよね。

金屋で又、延々と続くウォークラリーの人々に出会い、少々うんざり気味の私はそこを通り過ぎようとしたが、「折角来たんだし」と思い直し、順番を待って石段の上の格子ごしに中をのぞく。「何だか、素敵な石仏やな」ふわっと、おだやかな気持ちになって、先を急いだ。

初瀬街道に入った後、玉列神社では、珍しいキンギョツバキを観る。「ほんとに金魚みたいな形の葉やね」「どんな花？」「花は普通のツバキと同じ」「ツバキとサザンカのちがいは？」次々と学習意欲旺盛な面々、さすが！！

十二柱神社で「この狛犬をささえているの、何かわかりますか？」と弓場氏が質問される。

「こんなの他にはありませんからね」と言われてそれぞれ眺めたりさわったり。「おすもうさん」と、どなたかの声。ほんと！手を上げたり横向きだったり、いろんなポーズのお相撲さん。

後で、野見宿禰さんの話を聞いて、やっとなぜお相撲さんだったのか、納得 納得。

ここは相撲発祥の地だったのです。それに奈良に出雲という地名が、今もあることに気づきみんな驚きました。

長谷寺手前で、雨が降り出した中、樹齢250年の梅の古木のかもし出す美しさに見とれ、圧巻は、樹齢800年の大イチョウに出会ったことでした。川井会長が散会時に「樹から力をもらえました。」と言われたが、本当にそうだなあと思い、それぞれの植物がもつたくまじさに脱帽でした。

## 可愛い野鳥との出会い観察会に参加して

御所市 甲斐野

なんと冬もどりの2/27の朝、「寒いねえ」の挨拶で皆さん奈良駅に集合！！

まずは、本日の案内人：長野さんより野鳥たちとの出会い目標(25種以上)を長野さん手作りのマップとともに説明を受け全員わくわくドキドキ出発。皆さんそれぞれに会いたい愛鳥が御有りのよう  
で野鳥談義の中、なんと某氏よりツグミの焼き鳥は旨いでえーとの解説(イヤハヤ... )。

興福寺傍でカラス、スズメ、ツグミムクドリ、ドバト、といつも見慣れた鳥たちでしたが、よくよく観察するとそれぞれに歩き方が違うことに皆さん感心することしきり。また、ハシブトとハシボソカラスの鳴き声の練習もしました。

荒池周辺では、アオジ、シメ、モズ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、ジュウビタキ、カルガモ、アオサギ、カイツブリと多くの鳥たちがいました。お隣の鷺池では、珍しいイソシギ、シジュウガラ、ヤマガラ、飛火野では、皆さん始めてお目見えのトラツグミをじっくり観察、胸のうろこ羽がきれいでした。アトリ、アオゲラ、コゲラは近くでセッセと餌探しに夢中でした。(弓場さん良い写真期待！！)

春日野では、シロハラ、ビンズイ、ツグミが数羽、姿勢ただしく胸を張って威張っている姿が印象的でした。大仏池では、コガモのペアが仲良くスイスイと！(うらやましい)

花咲く馬酔木の中に小さくてかわいいメジロ。上空にカワウが旋回していたが我々を嫌い着水せず。(33種確認できました) そうそう途中のムクロジュの巨木にモウソウダケが進入(やどり竹?)して、むささび君の棲家を脅かしていました。

てな具合に、つめたい風の中、精一杯生きている彼らに励まされた一日でした。

## 三年目を迎えた「なら人と自然」

奈良市 阿部和生

13年9月に設立されたこの会も43人から現在70名に増えています。自然を楽しみながら守り育てよう、と言う基本姿勢は少しずつその輪を広げています。

新年度の活動を策定するに当たりその一つとして、里山の保全、地域との共生を掲げそのフィールドを見付け行動に移す事を考えては如何であろうか。

学研都市奈良に転居して15年 緑の多い空気も水も美味しいこの地に愛着を覚えるようになってきました。アクセスも良くなり日々快適な街になってきました。反面近くに点在した森や林が、気がつけば小さくなったり消えてしまっていてマンションや大型店舗に姿を変えています。

2・12産経新聞は、橿原市昆虫館が周辺の森を里山として手入れしようと計画しており、そしてその為のボランティアを募集したい、と報道しています。会員の方々の優れた知識や学ばれた技術を生かして、保全に参加あるいはその中核の人材となることも考えてみてはどうであろうか。



## 「Bird-watching から Birding へ」

長野晃

2月度の奈良公園での野鳥観察会では、幸運にもアオゲラ、トラツグミ、さらに、秋篠川など川辺ではよく見かけるが奈良公園では非常に珍しいイソシギを観ることができた。その他アトリ、ルリビタキ、シメなどの準スター級も登場、合計 33 種類と期待以上の成果であった。

ところで、ふつう野鳥観察会、探鳥会も含め鳥を観察することをバードウォッチング（以下BWと略す）と叫んでいる。ウォッチは「見る」より「観察する」という意味合いが強いから、BWと言う以上、単に鳥を見てその名前を知るといっただけに留まらず、じっくり「観察」して、少なくともその動作、習性などを自分の目で確かめるところまで行かねばならない筈である。しかし、たいていの観察会では、名前の説明をして、「綺麗ですね」「可愛いですね」で終わってしまっていることが多い。

「BWとは結構な趣味ですね」などという部外者も大抵はBWとは単に双眼鏡で鳥を見ることだと思っている。行きつけの理髪店の主人も「しょっちゅう行ってはったら嫌になりまへんか？」とよくいう。もしBWが単に「見る」だけに終わっているとすれば、上述の部外者の認識も間違っていないし、床屋の主人の心配も無理のないことになる。

本来BWというものは、それほど底の浅いものではない。しかし、そのことばの意味はやや限定的で、語感はやや軽い印象を与える。私自身も余り好きではないので出来る限り使わないようにしている。

もう十年以上も前になるが、米国の友人が Birding（バーディング）ということばを教えてくれた。「鳥する」とでもいう語感であろうか。BWをも含む概念で、「趣味は何ですか？」と聞かれたときに、「BW」と答える代わりに「Birding」と答えると格好がいらしい。Birding とは、ひとつの鳥について徹底的に観察するだけでなく、進化の過程、分類上の位置付け、世界分布、生態上の特長、食性、営巣、繁殖等々から、詩歌にどう詠われ、人間とどんな関わり方をしてきたか等々に至るまでを学ぶことだという。

ここまでやるのはちょっと大変と思うが、その友人によるとBWを続けていると自然に Birding に入って行くものであり、Birding の領域に踏み込まない限り生態系の一員としての鳥の姿は見えてこないという。

人と自然の係わりを考える「ネイチャーなら」に入会して以来ますます、友人のこのことばは私の中で重みを増しており、自分が案内役を務める時の指針ともなっている。

## 竹藪とヤブツバキ

寺田正博

竹藪とは、竹稈の高さを一辺とする正方形より広い面積に竹が生えていて、その藪中で枝の先端が相接しているところをいう。例えば、10メートルの高さのハチク林では、100平方メートルより広い地に竹が生えていて、その枝の先端がお互いに相接していることである。

神代から10世紀ごろまでは竹といえばハチクで、争いがおこると、ハチク材を切って先端を石で尖らせ、竹槍として用いた。

その後、中国から渡来してきたウメを利用した梅干し作りが発達し、戦場へ赴くときの弁当の副食とし、竹槍と主食梅干しとを揃えて戦争が行なわれた。この食料と武器の槍を多量に揃えたものが、天下を治めることができた。そして、しだいに近代社会が構成されるにつれて租税が始まり、社会機構が進んでいった。

そのうちでも武器を作るのに必要なハチクの藪を奨励のため無税にした。つづいて、食料の副食品であるウメの育成に努めた。竹と梅とは平素から努力して増産しないと、いざというときに間にあわなかった。このとき、藪の無税につづいて、ウメも同様に取り上げられ、無税のウメということで、藪梅の名があたえられた。この藪梅の名は、和歌山県の南部の藪梅林がいまに残っている。

槍に適する竹材は、節の低い真っ直ぐな竹で作らないと、扱いにくいので、そのような竹材を得るために、竹藪の周囲にツバキを植え、高さ3メートル内外で芯止めをしていた。このように筍に直接日光を当てないようにそだてると、節の低い良材ができる。当然、藪保護のためのツバキに藪梅の名が与えられ無税にされた。

ヤブツバキは日本の山野に野生しているツバキ科の植物で、日本を代表する植物ともいえる。学名も、*Camelia japonica* L. var. *japonica* である。

### 参考文献

「竹の世界」室井緯 「植物ことわざ事典」足田輝一 「牧野新日本植物圖鑑」

## ネイチャーなら 奈良・人と自然の会

### 第8回 東海自然歩道・自然観察会のご案内

陽春の東海自然歩道、大和富士と呼ばれる額井岳(822m)の山麓を巡り、戒長寺では天然記念物指定の「お葉つきイチョウ」や「ホオノキ」の巨木を、さらに室生湖畔から大野寺への自然観察会を行います。気楽にどうぞ

〈コース名〉 ⑧ 額井岳(ぬかいだけ) [12 km]  
〈日 時〉 4月7日(月) 9時50分集合  
〈集合場所〉 近鉄榛原駅：北駅前バス乗場(針インター行)

近鉄ナンバ【奈良行快急】8：44発…鶴橋8：50乗換【青山町行区快】…八木9：31…標原9：43  
〈行 程〉 近鉄榛原…玉立橋～戒長寺～室生湖～大野寺～室生口大野  
〈担 当〉

川井秀夫

寺田正博

弓場厚次

<第9回東海自然歩道観察会は5月7日(水)です。変更にご注意ください>

ネイチャーなら  
奈良・人と自然の会

[4月度例会]のご案内

葛城山

葛城山頂近傍で、カタクリとショージョーバカマの自生地を訪ね、帰路御所市在の奈良県薬事指導所構内を見て帰ります。(この期間5日間の限定開放です)

<日時> 4月19日(土) 近鉄御所駅前集合(南大阪線尺土駅乗り換え)  
+近鉄阿部野橋発吉野行 急行9:20分発尺土着9:50分 乗り換え  
+近鉄橿原神宮前発古市行 各停9:25分発尺土着9:50分 乗り換え  
尺土発9:56分 御所着10:04分 奈交バス10:08分発(登山口へ)  
ロープウェイ登山口発10:30分にて山上到着。

<持ち物> 弁当・水筒・観察用具・標高900mの耐寒着。

<天候> 小雨決行。大雨注意報以上は中止します。

担当 樋口 善雄 TEL 0742-44-7011



「自然工作リーダ」募集 (ボランティアです)

アースデイに出展

日時: 4月20日(日) 11:00~14:00

場所: 県立フアミリー公園(近鉄橿原線)

募集人数: 5名程度

内容: ヨシ笛・モックン・エンピツ・どんぐりのネックレス等。

主催: 奈良県実行委員会

+材料や小道具は当方で準備いたします。参加できる方は、下記までご連絡ください。

当日の担当 樋口 善雄

## 2003年3月度定例幹事会報告

1. 日 時 : 2003年3月7日(金) 18:00～21:00
2. 場 所 : 奈良県社会福祉センター 3階会議室
3. 出席者 : 川井、有本、谷口、寺田、樋口、勝田、小山、豊島、大寺、弓場。(欠席者:野田)
4. 司 会 : 川井 書 記 : 弓場
5. 議 事 :

### 【報告事項】

- (1) 会員動向 会員71名 退会1名 会員数70名  
会計残高 140,794円 (会費未納者 3名)
- (2) 第6回東海自然歩道・自然観察会: 2月11日(火) [初瀬街道] 参加者30名 (会員19名)
- (3) 2月度定例会・奈良公園野鳥観察: 2月27日(木) 講師・長野 参加者14名 (会員14名)

### 【承認事項】

- (1) ロゴマーク(会章)募集の件  
現在、寺田、甲斐野様の二名より既にご提案いただき、あと川井会長からの応募予定の作品を加えて、5月の総会時に出席者全員より投票で確定する。
- (2) 会員アンケート  
会の運営、企画の参考資料に会員アンケートを4月度に実施するため、アンケート内容の検討をおこない、環境調査(ex.メダカ調査等)の項目を加える。アンケートの回収は4月20日(日)を〆切りとする。

### 【討議事項】

- (1) 新年度 年間行事計画  
: 月例行事に関して企画より企画案の提案が有り、月次別に検討する。 定時総会は5月11日(日) 国際奈良セミナーハウスにて開催する。  
: 東海自然歩道・自然観察会は第11回「曾爾高原」で第一回のシリーズは終了するが、引き続き10月より、おり返しコースで開催する。  
: 環境調査活動 [メダカ、カエルの生態調査・社叢林の樹木植生調査等] を新たに企画し、活動を始める。
- (2) 定時総会の件 : 会則の変更があれば幹事を通じて4月の幹事会にご提案ください。

### 【提案事項】

- (1) アース・デー 2003 in なら  
日 時 : 4月20日(日) 会 場 : 奈良ファミリー公園 [担 当 : 樋口]  
\* ブース1画を確保し、竹の工作を実施するので会員の参画募集の案内を機関紙に。
- (2) 松尾湿地の件 : 所有者も既に確認され、地元の人々の情報では「かつては湿地では有ったが、湿地も自然に帰ったので、いまの自然のままで良いのではないか」との声もあり、又、郡山市の環境関係者も湿地の回復に手を付けないでとの談もあるとの由。(勝田)

### 編集後記

各部の決定事項や連絡事項および投稿は4月20日までに下記までお送りください。

連絡先 : 勝田 均

奈良・人と自然の会事務所

会長 川井 秀夫